

尋常小學修身書

卷一

T1A3

22

H55j

成就德器

小學修辭書

頁六

國語出版社

國語

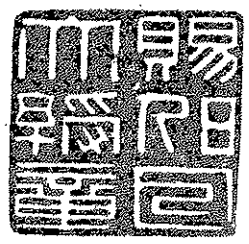
社

小學修身書卷之二

明治三十五年壬辰六月

明治三十五年壬辰六月

復長壽寺長壽寺住持僧德壽實則題



小學修身書卷之二

東久世通禧 著

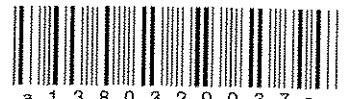
副島種臣 閱

第一 忠君

第一課

小學修身書 卷之二 第一課 忠君

圖書 和図書 迦



a 1 3 8 0 3 2 9 0 3 7 a

福岡教育大学蔵書

天皇陛下のねんめぐみ
はかぎりなり。つねに
忠義をわするべからず。

第二課

御眞影ををがむとせ
は、行儀たゞくせよ。
不敬のふるまいあ
るべからず。

第三課

君のためにはかならず忠貞の心をつづす。

九條師輔

第四課



高山彦九郎タカヤマヒコウといふ人は、みや
こに入るたびごとに、まづ
三條サンチヤウのはーのうへにひざま
づき、御所の方にむかひて、う
やうやーくをがみたり。

第二 孝行

第五課

父母は、われをうみ、わ
れをふだてて、くらう
―たまへり。孝行して、―ば
らくもをこたるづからず。

第六課

うみやまは、かぎりあり。
父母のめぐみは、かぎり
なし。

貝原益軒大和俗訓

第七課

善は、孝行にすぎたる
は、なく、惡は、不孝より
たもきはなし。

中村惕齋姫鑑

第八課



松^{マツ}平^{ダヒラ}好^{ヨシ}房^{フサ}は、五^{イッ}のころより
父母のいますはうにむかひ
て、足をいたさず。人が父母の
ことをはなすときは、ね
てをりても、わきなほりて

きけり。また母のそばにて
きりやはりをみるとき
は、手づから――まひて、母の身
にさはらぬやうにせり。

第三 友愛

第九課

兄弟なかよくするも、孝
行なり。むつまじくして
父母に――んぱいをかけ
ぬやうにすべし。

兄弟は、兩の手のご
とし。

諺草

第十課

兄弟は、たがひに、あひ
たゝみて、なにごとくも、

たすけあふづし。

くちびる、やぶるれば、齒

さむし。

本朝俚諺

第十一課



毛利元就^{モリモトヨシ}びやうきに^{モト}て死な
んとする^{モト}とき^{モト}こどもらの
かずほど矢を^{モト}とりよせて
ひとたば^{モト}とな^{モト}こどもらに
折らせたれども折れず。つぎ

にたゞ一本とりて折らせた
るに、すぐ折れたり。そのとき
ござもらにむかひて、兄弟も、
この矢のとほりなり。たがひ
になかよくして、一ツになら

ば、ちからつよくて、なにござ
もなしうべーといひたり。

第四 崇師

第十二課

父母はわれをやゝなひ

うだて、先生はわれを
をへみちびく。そのねん
ふかし。かならず、たふとみ
敬ふべし。

第十三課

先生のいひつけは、なにごと
もろむかぬやうにせよ。
先生のいひつけにろむく
は、道にあらず。
一日の師も、たろろか

にせず。

童子教

第十四課

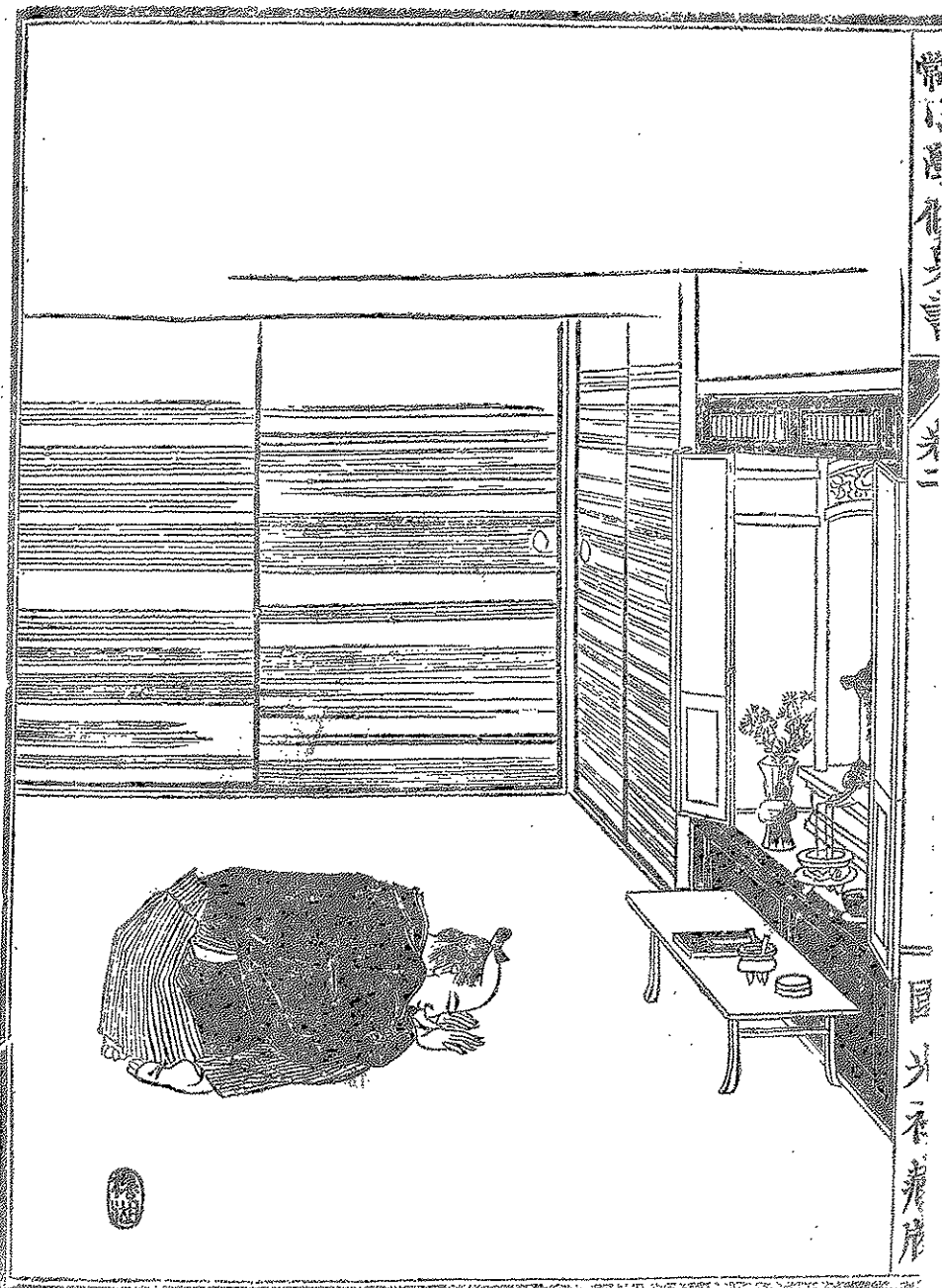
をくをうくるをちは
ぎやうばくせよ。又
先生にものをとふとき

はことばをていねいに
すべし。

七尺さりて師のかげ
をふまず。

諺草

第十五課



中村明遠ナカムラ アキトホといふ人は室鳩ムロノキウ

巢サウといふ先生の弟子なり。

先生死にてのちまいつき

忌日にはかならずうのいへ

にゆきていねいなるはい

ををがみて、ながく、をこたる
ことなかりき。

第五 養生

第十六課

わが身に、やまひあらば
父母は、かぎりなく、しん

はい、たまふゆゑ、つねに、
養生して、やまひにかゝら
ぬやうにするは、孝行
のひとつなり。

第十七課

常人の言、作らざる言
一
熟せぬくだものを食ふべ
からず。うまきものにても
多く食ふべからず。
病は口より入る。

本朝但諺

第十八課

道にいたがひ身をたも
ちて、ながいきなるほど
大なる福はなし。

貝原益軒養生訓

第十九課



ミヤサキインホ
宮崎筠圃といふ人は、こどもの

とき、せなかに、灸をすゑら
れたるになきいだーたれば、母
はあつきかごとひたり。筠
圃は答へてあつくはあらね

どはだへをうこなはぬは孝
のはづめなりときけり。わが
身はうまれつきよわくて冬
をすゑねばならず。うれが
かなしくてなくといひたり。

第六 勤學

第二十課

雪雨などふるとも、學校
はやすむべからず。學校より
かへりたるときは、ろの日

に習ひたるところをくりかへて、あすれぬやうにせよ。

第二十一課

人は學問して、才智をみがくべし。才智なくば、牛馬にたなどからむ。

玉もみがざれば、光なし。

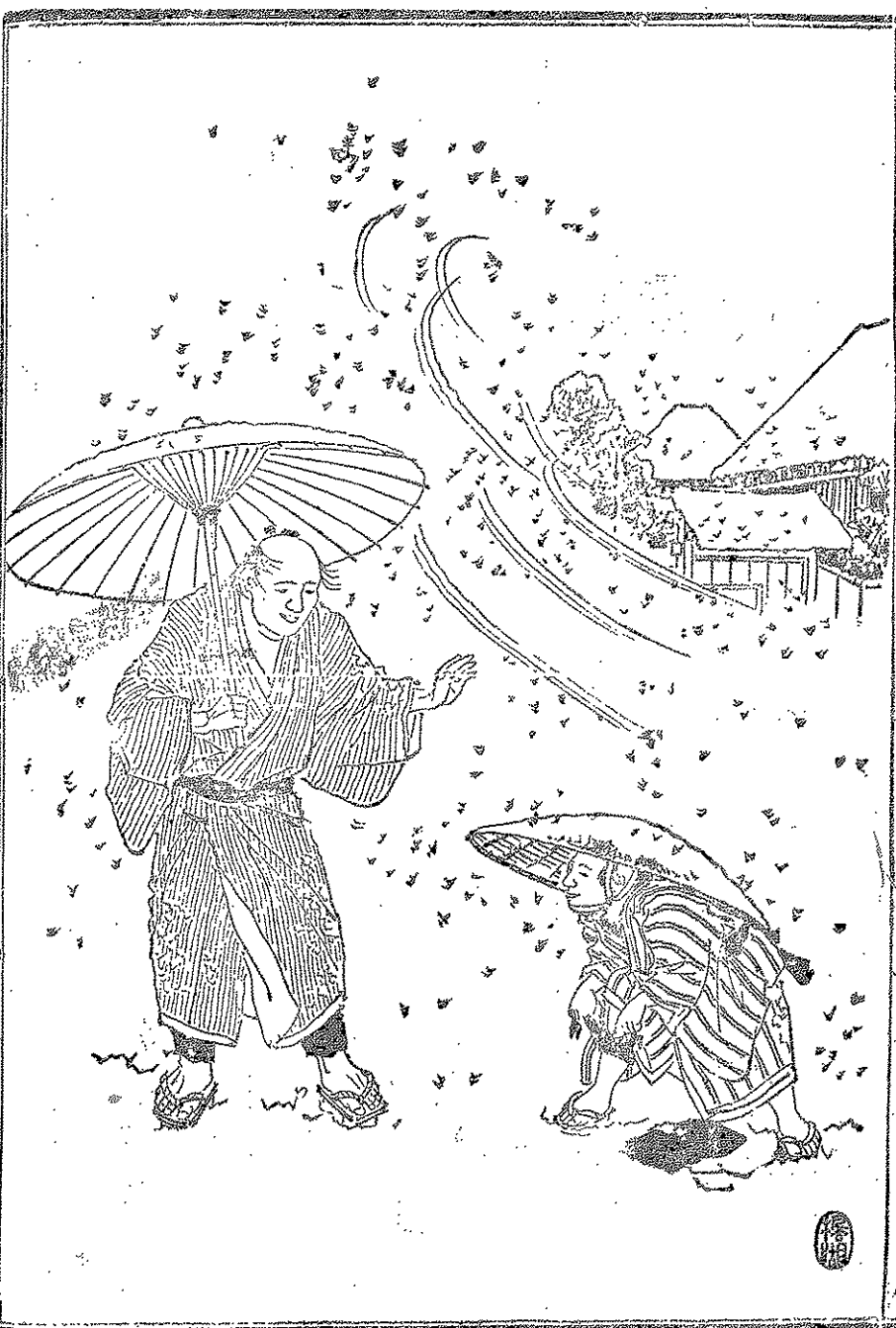
實語教

第二十二課

智をひらくことは、學問の功にあらずばなりがたし。

貝原益軒初學訓

第二十三課



小川泰山といふ人、セツの
き、雪のふる日、先生のもと
にゆけり。みちにて、雪が笠
につもり、たもくなりて、歩む
ことあたはず、つまづきたふれ

て、ひざを、けがせり。往來の
人があはれに、たもひ、たす
けたこゝて、家にかへれど
いへど、泰山きゝいれず、足
をひきずりながら、ゆきて

書物を習ひたり。

第七 習業

第二十四課

父母の家業はよく習ひ
て、をこたらぬやうにせよ。
家業は、身をたて、家を

たこそすもとるなり。

第二十五課

家業ををこたるときは、
まづ一人となる。

よく家業をつとむれば、

利禄はもとめずして、
の中にあり。貝原益軒家道訓

第二十六課

まいあさはやくたきて、父
母のたすけをせよ。あさ

ねをすづからず。

あさたきの家には福

きたる。

本朝俚諺

第二十七課



あるるなかのごども、比叡山^{ヒエイガン}にのぼり、さくらのさきたるに風のふくをみて、なき出だせり。人が花のちるををくみてなくかごとひたるに、さくらのちるはかまはね

どわが父の作りたるむぎの花がちりて、みいらぬかごたもひて、なくといひたり。

第八 儉約

第二十八課

人はわが身のほごを

かんがへてみだりにを
ごることなかれ。
奢る者は久くからず。

第二十九課

和漢古諺

たとひ人はよききもの
をきたりて己もまた

きたりてれもふづからず。
父母のきせたるものにて
まんぞくすべし。
上をみな身のほど
をしれ。

近古史談

第三十課



綾部道弘^{アヤベミチヒロ}はある日人よりうの子に、うつくきものをわくられたるに、うのきものを子にきせず、ふやうわが父は一生まづくてすぎたまひわれもまたひさくくたり。今はふ

トいふなき身なれども、昔のこと
をばわするべからず。すべて、人
は、をぐることはやすけれども、
儉約は、しがたし。われ子をあ
いせぬにはあらねど、をぐりに
ならはせぬためなりといへり。

第九 禮儀

第三十一課

つねに、禮儀を正しくし、立
居するにもものいふにも、つ
つみを第一として決して
さわがしくすること勿れ。

第三十二課

心につゝみあり身に
のりあるを禮といふ。

貝原益軒家道訓

人禮あればやすく禮な
ければあやふし。 全上

第三十三課



山本勘助ヤマモトカンスケあるとき、小宮山助太郎コミヤマスケタラウ

小山田八彌ヤマダハチヤ、秋山友市アキヤマトモイチといふ

三人のこどもに話をして

きかせゝに、助太郎は、いづかに

して、よくきゝたれども、八彌は、わ

らひてさわがしく、友市は、た

いくつゝて、たびぐゝ立ちさりた

り。勘助この三人のやうすを

みて、助太郎は、たゞかなる男な

れども、八彌は、心さだまらず、

友市は、不忠の名をのこさん

といひたり。勘助のことばに

たがはず、後に、助太郎は、主君
のために、うちどに、して、忠義
をつくりたれども、八彌は、にげか
くれ、友市は、てきに、かうさん
て、不忠の名をのこしたり。

第十 慈愛

第三十四課

人は、つねに、慈悲の心を
うゝなふべからず。人のふ
かうを見る、ときは、わが
ことのやうに、おもひてい
たはりめぐむべし。

身をつみて、人のいたさ

をいれ。

本朝俚諺

第三十五課

人をみだりにねひつかふべ
からず。わがあつきときは
人もあつく、わがさむきと
きは、人もさむかるべしと

おもひて、慈悲をくはふ
べし。

たよる人は、慈悲の心
あつく、人をあはれむ
を第一とす。

松平定信自教鑑

第三十六課



田邊晉齋といふ人、ともたちの
 家にゆき、夜ふけてかへるとき、
 門のまへにまちをたふすけらい
 のいかにも、さむげにみえたれ
 ば、われはあたゝかにてをりな
 がら、なんぢらをかゝる目に

あはしむるはふびんなりと
いひてそののちは、夜外へ
出ぬやうにせり。

第十一報國

第三十七課

われらの先祖は、皆つよき人

にして、わが國のほまれをか
かやかし、一たびも、他國のあ
なごりをうけたることなし。

第三十八課

人々をことならず、家業を
はげむは、わが國のこみ

さかゆるもとるなり。

仁徳天皇六御言

民のどめるはすなはち
朕のどめるなり。

第三十九課

われらは、つねに、家業を

はげみ、また、先祖のごとく
つよき人とゐらむことを
をわするべからず。

今上天皇大御言

祖先の遺風を顯彰す。

第四十課



ひかり ヤマハナナガ 山田長政 ナガマサ といふ人は、
海をわたり、暹羅 シロム といふと
ほき國にいたり、その國の
王をたすけて、六昆 ロクコン といふ
國と、いくさをなすことよく
く敵をうち、たがへたり。後

には、つひに、六昆國の王となれり。

小學修身書卷之二終

明治二十五年 六月十五日印
全 二 卷 七月十三日發
全 二 卷 八月十三日訂正得
全 二 卷 八月十七日訂正得
全 二 卷 九月三十日校訂三
全 二 卷 七月三日校訂三
全 二 卷 九月十三日訂正四版印
全 二 卷 九月十六日訂正四版發行

本書定價表

尋常		高等	
生徒用	卷一	生徒用	卷一
全四冊	金九錢六厘	全四冊	金十二錢
卷二	金九錢六厘	卷二	金十二錢
卷三	金十錢八厘	卷三	金十二錢
卷四	金十錢八厘	卷四	金十二錢
全四冊	金四十錢八厘	全四冊	金四十八錢
尋常小學修身書掛圖前後全二綴		金參圓	
尋常修身書字解		全一冊 金十錢	

版權
所有

發行所
東京
西澤之助

東京市京橋區本村町百八番
東京市京橋區樂地二丁目二
東京市京橋區樂地二丁目二
十一番地

光
社

明治27
24
柳川島添

文
24
柳川島添